

ほと めんほく



令和5年12月21日

令和5年も残り少なくなりました。2学期は、授業参観や修学旅行、中津川野外学習、運動会など様々な学校行事を実施することができ、保護者の方に子どもたちの学校での様子を見ていただくことができました。冬季休業は17日間ありますが、ご家族も含めて皆様が体調を崩すことなく健康に過ごしていただきたいと思います。よいお年をお迎えください。

ほとニュース1 努力点研究代表授業を行いました。

本年度の学校教育努力点研究のテーマとして、「学習のつながりを意識して、自ら解決することができる児童の育成」として、各学級で実践に取り組んでいます。

12月7日（木）に、4年2組にて努力点研究代表授業を行いました。算数科「小数のかけ算やわり算」の学習で、「 $2 \div 4$ の計算の仕方を考えよう」というめあてで学習を進めました。前時までに学習したことを基に、計算の仕方を自分で考えたり、友達と相談しながら考えたりして、計算の仕方を導き出しました。まとめの場面では、「0.1がいくつ分かを考える」や「10倍して計算した答えを10でわる」と計算の仕方を進んで発表する子どもの姿が見られました。



ほとニュース2 歯科保健指導を行いました！

本校では、11月27日（月）から12月8日（金）までの期間を、「歯みがき週間」として位置付け、自分の口の中を清潔に保つ意識をもてるように、歯みがきをすることを呼び掛けました。

家庭で、朝食後と夕食後に歯みがきに取り組めるように、子どもたちに「歯みがきがんばりカード」を配付しました。

また、12月15日（金）には、1～5年生、あすなろ・ひまわり学級の子どもを対象にした歯科保健指導を行いました。歯科衛生士専門学校の学生を講師として招き、乳歯や永久歯をむし歯にしないようにする方法や自分に合った歯みがきの仕方を教えていただきました。



ほっとニュース 12月10日は「人権デー」

12月10日は国連で世界人権宣言が採択されたことを記念し、「人権デー」と定められた日です。本校では、4日（月）から8日（金）までを人権週間と定め、人権を尊重しようとする姿勢を学ぶ期間として位置付けています。

4日（月）には、朝会時に校長より子どもたちに向けて、「ええところ」（くすのき しげのり作 ふるしょう ようこ絵 株式会社学研プラス出版）という絵本の読み聞かせとともに「自分も友達も互いに楽しく生活できるように、ええところをいっぱい見つけましょう」という話がありました。また、同じ日に名古屋市子どもの権利相談室（なごもっか）の擁護委員や相談員を招き、3・4年生を対象に子どもの権利について考える出前授業を行いました。

各学級では、なごやING（いじめのない学校づくり）キャンペーンの取り組みとして、子ども一人一人がいじめをなくすために自分でできることを用紙に記入し、台紙に貼り付け、学級ごとにオリジナルポスターをつくりました。

さらに、道徳や学級活動の時間に、人権に関する学習を深めました。みんなで誰もが楽しく過ごせる名北小学校をつくっていきたいと思います。



保護者の皆様へ

人権週間の取り組みの中で、校長の読み聞かせで取り上げた絵本「ええところ」のあとがきに、ぜひ保護者の方にもお読みいただきたい内容が書かれておりましたので、紹介させていただきます。

『ええところ』が生まれた「よい子の石」

「よい子の石」は、今から20年ほど前、私が小学校の教諭だったころに子どもたちとはじめたものです。（もちろん、これは、家庭でもできます）

私は、まず白い玉砂利（ホームセンターなどで売っている直径1cm程度のもの）を一袋買ってきて、それを「よい子の石」と名付けました。次に、この「よい子の石」を貯めていくためのペットボトル（500mlのもの）を私も含め各自が用意しました。

どういうふうにするのかというと、自分が「よいおこない」ができたときやがんばったときには自分のペットボトルに、友達の「よいおこない」や「いいところ」を見つけたときには、その友だちのペットボトルに、みんなの前で発表してからその数だけ「よい子の石」を入れるのです。

たとえば、『ええところ』のお話では、そうじをがんばったみんなも、みんなの手をあたためてあげたあいちゃんも、あいちゃんの「ええところ」を見つけてともちゃんも、「よい子の石」をもらうことができます。

こうして、「よい子の石」として一つずつ一つずつたまっていったたくさんの小さな白い石は、子どもたちが大人になっても「自分の机にあります」というくらい大切な宝物となります。

『ええところ』のお話は、友だちの「いいところ」を見つれたり、「いいところ」を見つけてもらったりして、「よい子の石」をもらったときの、花が開くような子どもたちの笑顔から生まれました。

くすのき しげのり

子どもが、自分自身のよさに気付くことができる素敵な取り組みです。自分のよさに気付くことは、自己肯定感を育てることにつながります。子どもたちが笑顔で前向きに生きていくことができるように、学校や家庭、地域で子どもたちを育てていきましょう。